

浪江の

こころ通信

● 第93号 ●



平成23年3月11日に発生した東日本大震災、そして福島第一原子力発電所の事故により、町内全域に出されていた避難指示は、平成29年3月31日に「帰還困難区域」を除き解除されましたが、多くの浪江町民は福島県内外に分散して避難生活を続けています。町を取り巻く状況が徐々に変化の中で、町民の皆さんがどのような思いで生活し、ふるさとへの思いを抱いているのか。

“浪江のこころプロジェクト”は、町民の皆さんの声を「浪江のこころ通信(※1)」を通してお届けし、皆さんの思いや暮らしぶりを発信・共有しようとするものです。

一般社団法人東北圏地域づくりコンソーシアム(※2)が中心となり、全国各地のNPO、大学等の皆さんが取材を進め、浪江町と連携し「浪江のこころ通信」を編集・発行しています。

※1 浪江のこころ通信は、町民の皆さんがお話した「こころ」を伝えることを大切にするため、取材者が聞き取ってまとめた原稿をほぼ原文のまま掲載しています。

※2 一般社団法人東北圏地域づくりコンソーシアムは、大学、NPO、企業、経済団体、行政等が連携したコミュニティ支援ネットワーク。仙台が本拠地。

「浪江のこころ通信／第93号」への感想をお寄せください。

【連絡先】〒979-1592

双葉郡浪江町大字幾世橋字六反田7-2

「浪江のこころ通信」宛

FAX.0240(34)4593





石川 史織さん(樋渡)

取材者：バーグ・プラン研究室 深田
取材日：平成30年12月29日

「ふるさと復興応援楽団NEO」の第2回吹奏楽演奏会を浪江町地域スポーツセンターで開催します。ぜひ、聴きにきてください!

建築デザイナーを目指して大学の建築学科に通いながら、仲間たちとふるさとを元気づけるため吹奏楽団を結成し、今後も浪江町で演奏会を続けて行きたいと頑張る石川さん。現在の活動や将来の夢、浪江町の復興への想いなどについてお伺いしました。



▲来場を呼び掛ける石川さん

◆浪江での吹奏楽団演奏会
平成30年3月、仲間と結成した「ふるさと復興応援楽団NEO」の吹奏楽団演奏会を、浪江町地域スポーツセンターで開催しました。会場には、私たちの予想を大きく上回る70人以上の方が詰め掛けてくださり、中には、福島市など遠くから来てくださった方もいました。
浪江で演奏会をやるうと思っただけで、福島の高校時代の吹奏楽部の顧問に、浪江高校の先生が赴任して来られたのがきっかけです。「仲間と共に浪江町で演奏会を開いて、住民の方々に元気づけたい」と先生に相談したのが始まりでした。
楽団名の「NEO」は、Namiieの「N」、Energyの「E」、Organizationの「O」であり、復興を応援し、皆さまの力となる組織になりたいという意味です。

◆浪江の思い出・風景
浪江では、田んぼや畑に囲まれた自宅周辺で鬼ごっこや缶蹴りをして遊んだことや、町内で行われていた野馬追の時に馬が近づくとこまったことを思い出します。山と海があった空気もいいのが浪江町の良さでした。行ってみたい場所は、祖母のお姉さんの家があった小丸の焼築です。周りに家も少ない山

◆福島市で家族と生活
震災前は、父母と姉、祖母と私の6人家族で、樋渡地区に住んでいました。震災後、津島に2、3泊した後、会津若松市東山温泉、茨城県の親戚宅、福島市のアパートへと避難。現在は両親が福島市に購入した住宅に家族と暮らしています。避難した当時、私は小学6年生で不安な毎日でしたが、家族がいつも一緒だったことがとても救いでした。しかし、80歳を越えていた祖父母は他界してしまいました。
◆私の夢は建築デザイナー
私の夢は建築デザイナーです。建物や住宅の間取り、色合いなどをデザインし、設計することに興味があったので、高校は工業高校の建築科で学び、現在は、大学で建築学科を専攻しています。今年から就職活動が始まるのですが、福島県内に就職して、地元浪江町や福島県のために活躍したいと思っています。

◆第2回演奏会に向け準備中
現在は、3月30日(土)に、浪江町地域スポーツセンターで開催する第2回吹奏楽団演奏会(開場13時、開演13時30分)に向けて準備中です。皆さん、ぜひ、聴きにきてください。
また、私たち吹奏楽団の浪江町の演奏会はこれからも続けていきたいので、一緒に演奏してくれる方を募集しています。どうぞお気軽にご連絡ください。



吉田 百花さん(権現堂)

取材者：NPO法人ちば市民活動・市民事業サポートクラブ 鍋嶋
取材日：1月15日

「相馬野馬追」に出たい、出なくては



◀宝物の一番旗と肩証
▶勇壮な乗馬姿の吉田さん



震災の時、小学6年生だった吉田さん。現在は、神奈川県に在学し、ご両親が福島市内で経営する和風ダイニング「きち傳」の経営をサポートしたいと勉学に励んでいます。

◆「相馬野馬追」に出たい
震災の前の年、小学5年生の時に初めて「相馬野馬追」に出ました。震災から約7年が経過した昨年は、震災後初めて浪江町で開催すると聞き、19歳の私は最後のチャンス、「出たい、出なくては」と思いました。8年前は、父の幼なじみの方から馬をお借りしましたが、今回は、大学の近くの伊勢原市にある乗馬クラブの馬をお借りしました。乗馬クラブの方には、乗馬訓練をしていただいた上に、浪江町まで馬の移動をしていただきました。本当にお世



▲小学5年生の時に初めて出陣

◆震災で変わった生活
震災の時、私は小学6年生。新潟の親戚の所に避難した後、中学校の入学式に出させてやりたいという両親の思いから、4月には福島に戻り、福島市立信夫中学校に入学しま

話になりました。甲冑師だった祖父は、陣笠を作ってくれました。最初は「落馬が心配」と反対していた父も、出ることが決まると、以前開催された野馬追のビデオと一緒に見ながら、馬の扱い方を助言してくれました。私も父も野馬追が大好き。父は今も、馬装の準備などをする裏方として活躍しています。
野馬追の1日目は中央公園での出陣の後、陣羽織姿で南相馬市の雲雀ヶ原祭場地まで練り歩き、2日目は甲冑を付けて本祭りに参加、浪江町に戻り中央公園で行われる神旗争奪戦が野馬追のハイライト。標葉郷大將の吉田栄光さんから、「19歳で最後だから頑張れ」と気合いを入れられました。
自分では取れませんでした。が、光居洋行さんからいただいた御神旗の一番旗は、私の宝物になりました。

◆「きち傳」をみんなの店に
姉は、東京で働いています。が、姉も私も将来は、福島に戻って両親のお店を手伝いたいと思っています。そのために、経営や調理に関する資格などを記載した「やることリスト」を作成、大学在学中にできるだけの資格を取得したいと思っています。「きち傳」にたくさんのお客様を迎えることができるように、家族4人で力を合わせて頑張っていけたらと思います。
その後、第一中学校に転校、郡山での高校生時代も含めてハンドボールに熱中し、県代表として国体にも出場しました。残念ながら高校卒業前に膝を痛め、今はやっています。が、良い経験になりました。
震災前、両親は浪江町役場近くでホテル「行人荘」を経営し、多くの人たちに利用していただけていました。震災後しばらくして、両親は福島市内に、和風ダイニング「きち傳」を開業しました。昼は仕出し弁当、夜は旬の食材を生かした和食ダイニングの店として人気を得ています。母は発想力に富んでいて、新しい料理を考え出すのももちろん、お菓子作りにも取り組んでいます。母の発想力と父の決断力で、現在があるのだと思います。
◆若者を呼び込むまちづくり
町は除染も進み、帰れる地区も多くなりましたが、戻ってくる住民はまだ少なく、高齢の方が多いと聞きます。浪江の自然環境や、住民の人柄などを生かして、広く移住をPRしてはどうでしょうか。また、今まであった祭りやイベントも復活させているのはいいんですが、若い人と呼ばれるためにはこれに、新しいもの・プラスαが必要だと思います。みんなが主役になれる、外部の人も入ってもらえるような、参加型の企画・イベントができればいいと思います。

『和風ダイニング「きち傳」』 福島県福島市陣場町5-20 ☎024(563)4896